

「経済動向調査に関するアンケート」 調査報告書(概要版)



太田市新田商工会

H30(2018)年2月

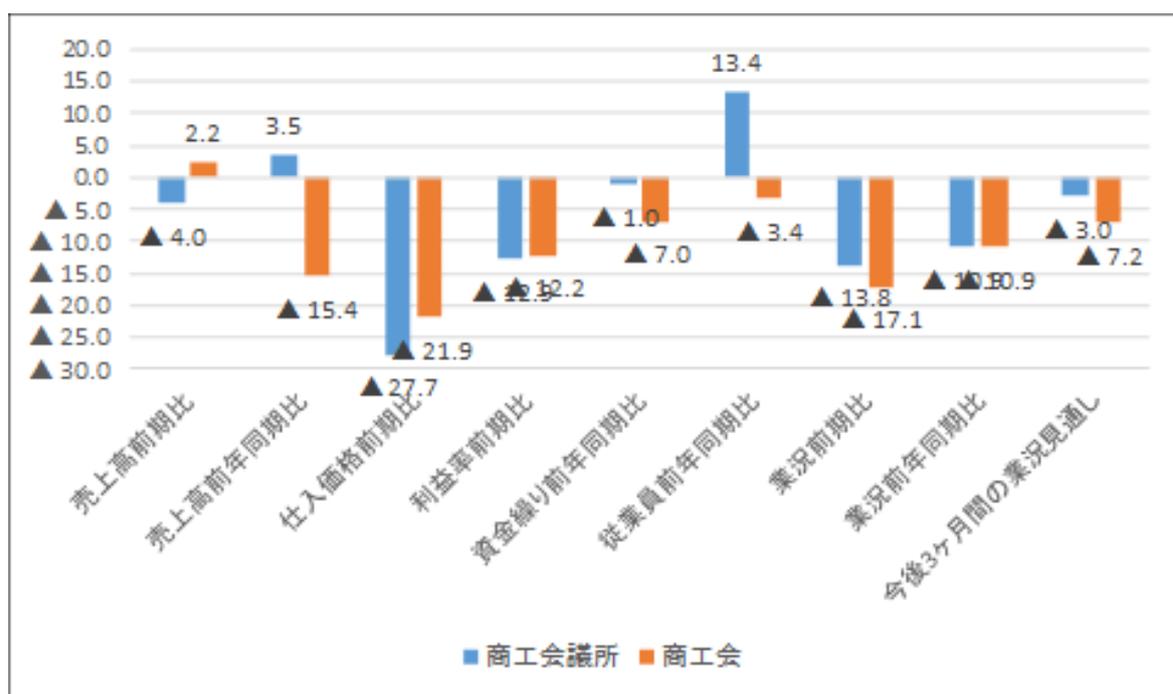
I 「経済動向アンケート調査」の目的について

当調査は、当地域内で事業を行う事業者の「景気動向」について調査を行うものである。経済動向調査については、「県内経済動向・統計（関東財務局）」や「業況判断来季予測（群馬経済研究所）」などが発表されているが、必ずしも当地域の動向を表すわけではない。そこで、当商工会において、地域の実情に即した情報の収集・分析を実施し情報を発信する。当調査は、当地域の小規模事業者がそれらの情報を持続的な発展に役立ててもらうことを目的とする。

II 経済動向調査分析

1 指標別 DI 値について

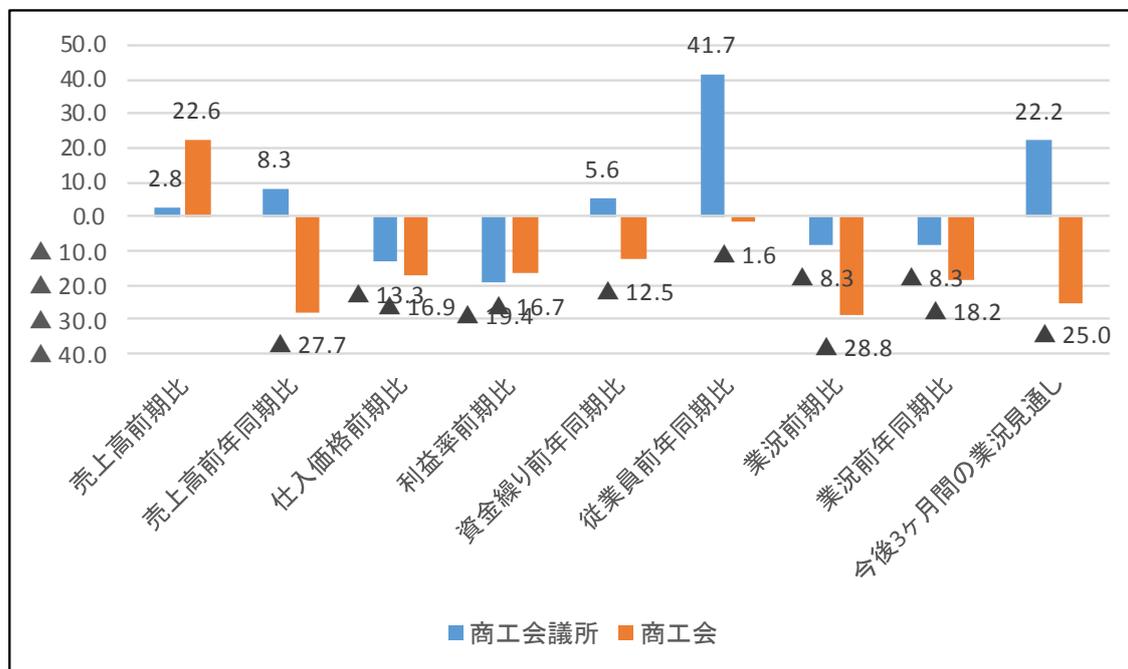
- ・「売上高前期比」「仕入価格前期比」においては、商工会議所の DI 値と比較し当商工会の事業者の DI 値の方が高かった。
- ・それ以外の数値については、当商工会の事業者の数値が総じて低く、厳しい状況におかれているものと考えられる。特に、「売上高前年同期比」「従業員前年同期比」においては、商工会議所の DI 値はプラスであるが、当商工会の DI 値はマイナスとなっており厳しい状況となっていることがうかがえる。



2 業種別 DI 値について

(1) 輸送機器製造業

・DI 値がプラスとなっているのは売上高前期比のみである。その他の数値はすべてマイナスとなっており厳しい状況といえる。特に従業員同期比・売上高前年同期比は大きく下回っている。

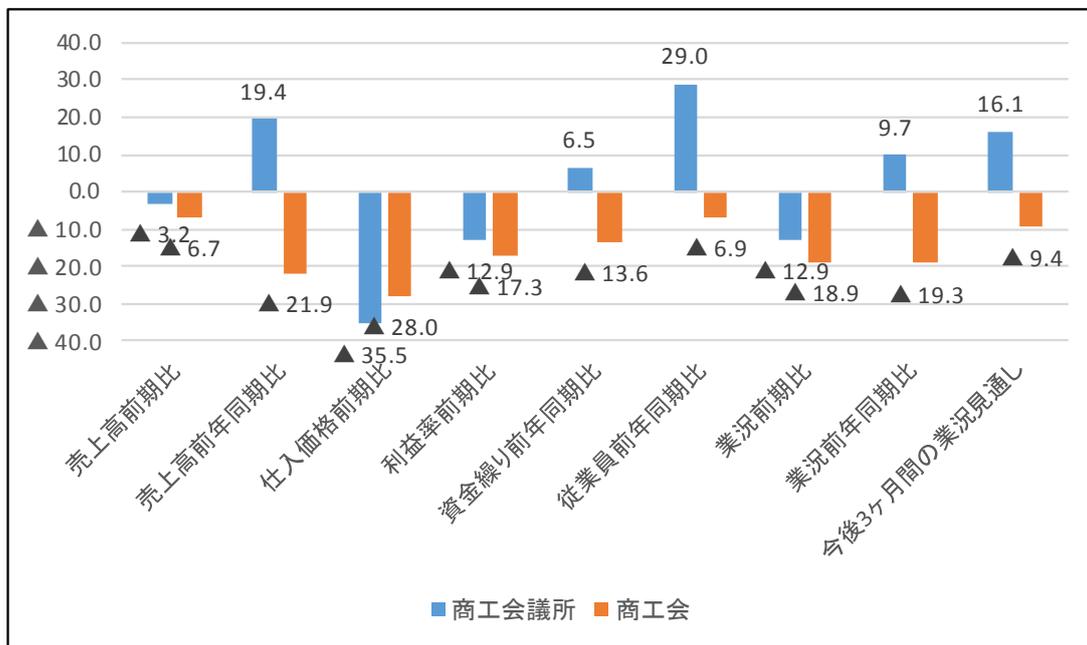


○企業コメント

- ・自動車業界、現状では好調に推移しているが、今後僅少であるが減少傾向の心配もある。USA 景気次第で、可成り変化する様子。
- ・グローバル化による国内仕事量確保が課題です。顧客を増やし少しでも多くの仕事を確保したいと思っておりますが、弊社のような小企業では資金に限界が有り設備投資や人材確保・育成が難しく前向きな投資が出来ないのが現在の状況です。
- ・原材料が高騰しても、販売価格が変えられず、苦勞している。国政が言う程景気が良いと感じられない。
- ・海外流出により悪化する。
- ・仕事量が 10%~20%位増加（7月と8月）

(2) その他の製造業

・DI 値は仕入価格前期比のみ上回っている状況である。売上高前年同期比・従業員前年同期比の差が大きい。

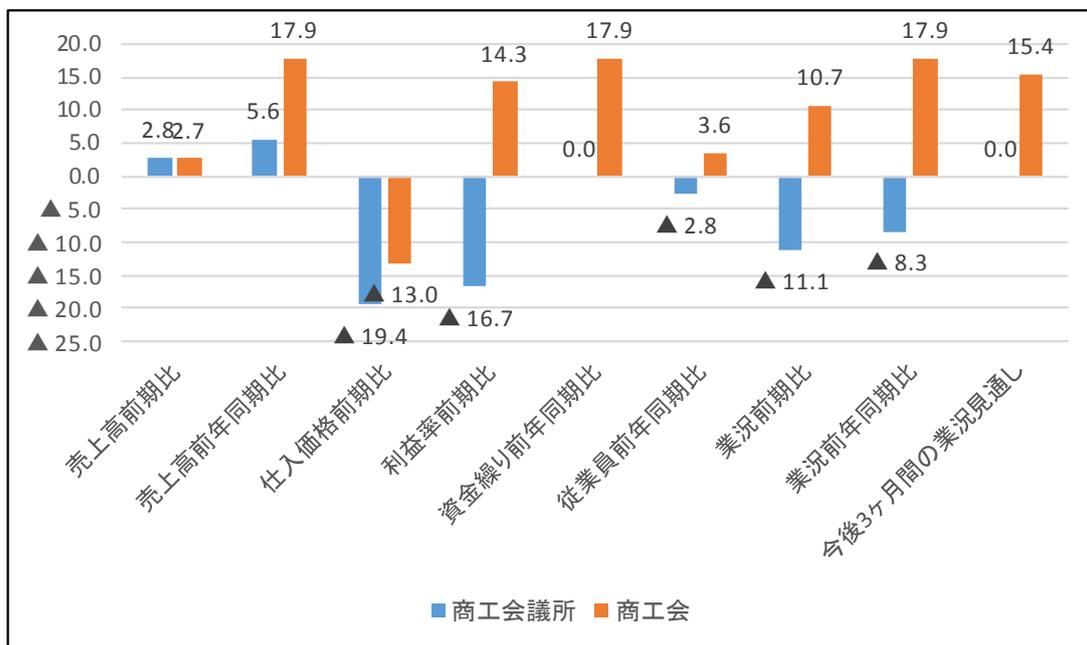


○企業コメント

- ・アミューズメント関連の仕事をしてはいますが先行きの動向が厳しく、今後の販路拡大に努めています。
- ・人手不足は厳しい状況です。仕事を取りにいても労働時間等の制限が現状世間体として厳しく、仕事を増やす状況下にはないというのが現状です。
- ・今迄製造業務が主でしたが、本年度より製品の販売にも係りを持ち総合的な会社形態に移行していく様進めている。

(3) 建設業

・DI 値は総じて良い状況といえる。特に利益率前期比や業況前年同期比が好調な状況となっている。

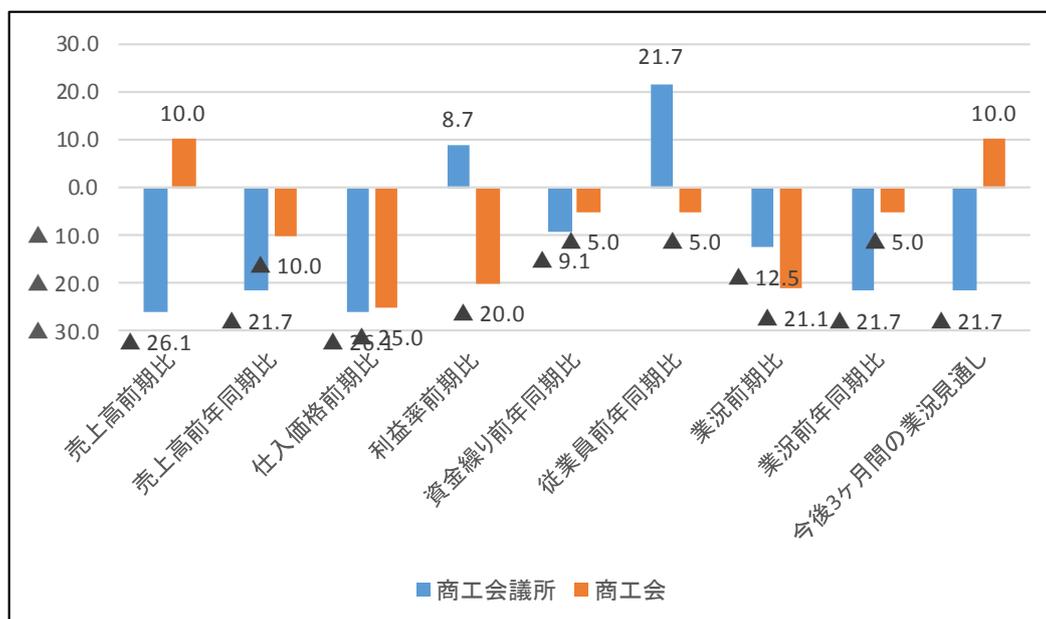


○企業コメント

- ・孫請けの立場で、親会社の言うなりで、工賃も40年前と変わらず、(一度も値上げなし)で仕事量は減少の一方で、非常に厳しい現状です。
- ・販売価格の競争がはじまっている。

(4) 卸売業

・DI 値については、売上高前期対比はプラスとなっており好調といえる。一方、利益率前期比・業況同期比はマイナスの値が大きく事業者の厳しい状況がうかがえる。

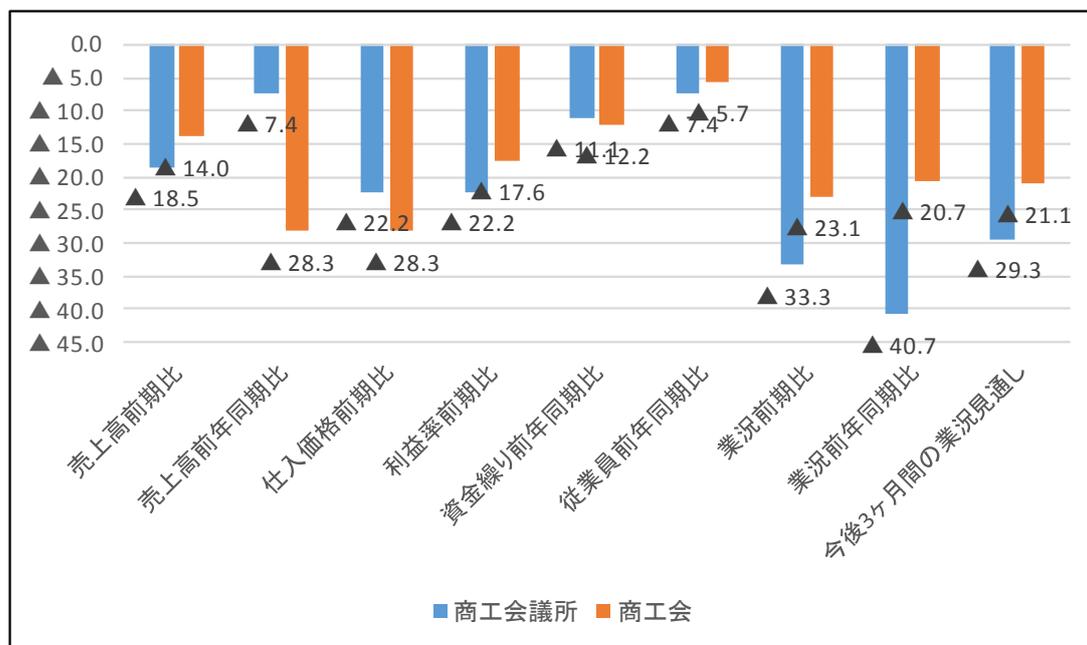


○企業コメント

- ・メーカーが直接販売（もしくは大手企業：ネット販売）など、今迄の販売ルート（メーカー→一次問屋→二次問屋→商店→一般客）とは違った販売方法に変わってきている為、中間業者としては、厳しい状況になりつつあります。弊社としても、時代に乗り遅れない様、現代のニーズに合った営業をかけていきたいと思っています。
- ・相場の推移により、大きく左右される事が多い為自社の状態の分析を細かく行っている。業界の景気はここ数年余り大きな変動はないが取り巻く環境の変化（業態の状況、景気上下、法の改正等）に対応しながら業にあたっている。中でも景気（相場）の上り下りの仕入売り共に大きく影響するので目を見張っている。

(5) 小売業

- ・商工会議所調査・商工会調査においてすべての DI 値がマイナスとなっており非常に厳しい状況といえる。売上状況・仕入状況が厳しい状態となっており結果として利益率・資金繰りに影響が出ている。



○企業コメント

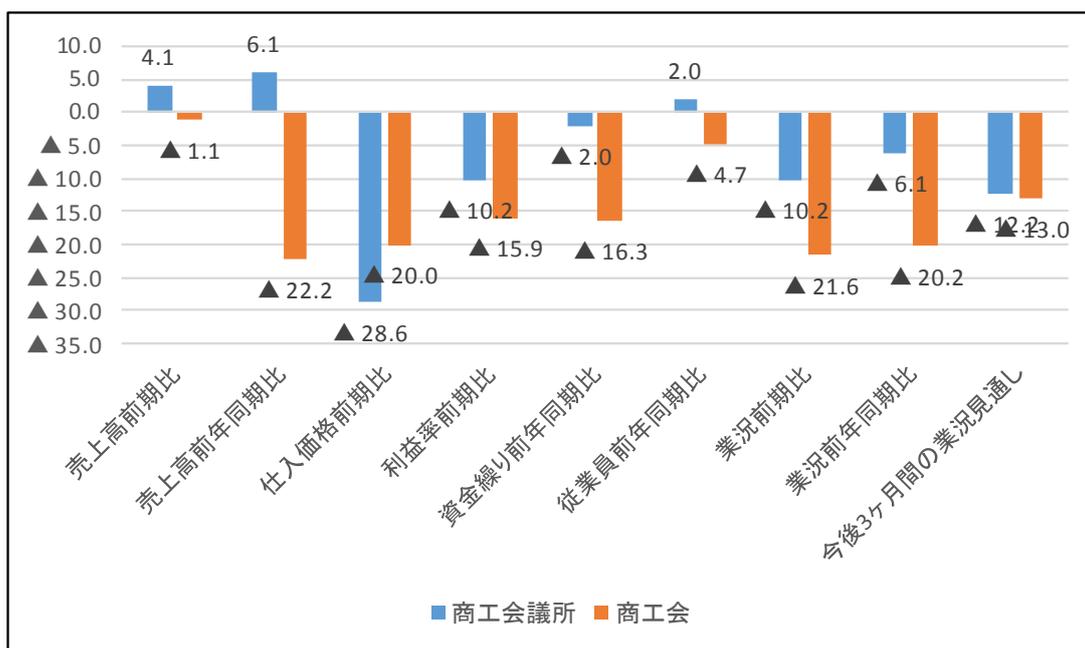
- ・顧客減少に伴う販売方法の転換期を迎えている。
- ・経営者の高齢、後継者不足の伴い個人商店は数年で無くなる危機に陥ると思う。
- ・小売業は通販（ネットでの購入含む）で殆どの商品が購入出来る為かなり厳しい状況下にありますが大型店やドラッグストア等も競争が激しく店舗の特長化が望まれていると思います。
- ・個人店ならではの良さをもっと生かし消費者のニーズに応える努力が必要を感じております。商工会のアドバイスや情報提供を受け、活用したいと思っておりますのでご指導を宜しくお願致します。
- ・小売業に関しては今後希望が持てないと思う。
- ・規制緩和以来真綿で首を絞められている如く経営は下降し続けどうあがいても上向く状況は

なく近々廃業を考えている。

- ・店舗の老朽化、従業員の高齢化、若い従業員の確保の難しさ課題は、山積みです。販路拡大等を考える前に現状を支えるのに、精一杯の状態です。
- ・消費者の直販が微増しているが、業務店への卸売は年々減少しているため、全体として消費は低下しているが、より専門性を高めたものには反応があるようだ。
- ・人手不足です。必要とする人材が来ません。

(6) サービス業

- ・商工会調査においてすべての DI 値がマイナスとなっており厳しい状況といえる。小売業と同様に売上状況・仕入状況が厳しい状態となっており結果として利益率・資金繰りに影響が出ている。



○企業コメント

- ・競争の厳しい業界であるが毎月の「月次決等」を作成分析しており勝ち残り策を立てて取り組みしております。(経営分析の徹底)
- ・天候に左右される事は時々あるように感じます。お客様の高齢化も影響があると思います。
- ・価格競争が横行しているため、利益率は悪くなってしまう。
- ・インターネットによる集客がライバル増加により厳しくなっています。
- ・低金利であり経済が悪化することは考えにくい。
- ・後継者が不在の各店が多く今後の商店街としての機能がなくなるのではないかと思います。
- ・収入が安定しないので若人事業者がいません。
- ・大型店及びデラーへお客様は行く傾向
- ・安売りの店が多すぎる。
- ・値上げもできないのに時給を上げる動きが大きいので儲けが薄いので仕事をしている意味がなくなりそう。
- ・経済動向には関係ないと思いますが、売上が上がれば上がるほど税金の高さに閉口しています。

税率の幅が広すぎる。小規模ですから苦しいです。

- ・過労で自殺や残業の問題などマスコミで取り上げられ経営側が不利な状況（サラリーマン擁護）に向かっている為必要としている人材の確保がきびしい。高度成長期時の労働基準では会社は内部よりつぶされる
- ・事業継承者が減少し従って廃業する数が多くなっている。